９課 Lección 9　　¿Qué haría yo sin ti?

■本文

Q-1.　(2)スペイン語では親しい夫婦の間柄で cariño, encanto などと呼ぶのが通例ということは，直接的な愛情や仲睦まじさを示すのが一般的愛情表現となっているからだろうか。日本ではあなた，ぐらいの表現しかないのではないだろうか。
A-1.　確かにスペイン語では愛情表現が豊かです。また会話の途中で愛情表現や相手の名前を頻繁に入れて相手との繋がりを保っています。(実は逆に相手をけなす悪口の表現も日本語に比べると非常に多いのですが授業では扱いません。映画などで頻出します。)

Q-2.　(5) me hago ermitaño の ermitaño にどうして冠詞がついていないのですか。
A-2.　一般に概念にとどまり，具体性を帯びていないものは無冠詞になります。この場合 ermitaño は，「隠者，世捨て人」という一種の身分として表現されており，具体的にどのような ermitaño であるかということを問題にしていないので冠詞がありません。「(この前やった剣と魔法の RPG に出てきたような）隠者」というように具体性を帯びていれば，定冠詞や不定冠詞がつきます。

Q-3.　(6)でなぜ過去未来が使われているのかよくわかりません。
A-3.　この haría は「過去のことの推量」ではなく，仮定の帰結文として使われています。ここでは sin mí「私がいなければ…」が仮定の部分で，qué harías「あなたは何をするの？」が帰結文になります。

Q-4.　(10) deber と tener que ～はどう違うのですか？hay que ～と tener que ～の違いは授業で受けた説明で分かったのですが…
A-4.　たしかに違いは微妙です。deber は道徳・心理的な義務を表します。Debes hacer las tareas.「君は宿題をしなければいけない。一方 tener que は（個人がそのことをやる）必要があることを示します。Tengo que hacer estas tareas. 「ぼくはこの宿題をしなければいけない」どちらも日本語では「…でなければいけない」となってしまいますが，deber は道徳的な義務感，tener que は必要性とすると意味の違いがわかります。

Q-5.　(12)の文は sale＞saldrá では？
A-5.　この文脈では確かに「未来」の時を指していますが，時が未来であっても「推量」や「意志」の意味がなければ現在形で表現されます。「未来形」という名称では，未来形が必ず「未来」を指す，また逆に「未来」を指すときは未来形を使うと誤解されてしますので，私（上田）はむしろ「推量形」と呼んだほうがよいと思います。しかしスペイン語文法では「未来形」と呼んでいるので用語上の混乱を避けるために「未来形」という用語を使っています。現在のことでも「推量」の意味が加われば未来形になることにも注意しましょう。

Q-6.　(14) poner は「置く」とか「…にする」という他動詞だと思うのですが，教科書の te pones nervioso で「イライラした状態になる」と自動詞っぽくなっているのはどういうコトでしょうか。
A-6.　他動詞の場合は他者を「…にする」という意味になりますが，それが再帰動詞になると「自分を…にする」という意味から「自分が…になる」という意味に変わります。

Q-7.　(18) más tarde = luego ですか？　ニュアンス，使い方の違い等はありますか？
A-7.　más tarde は「もっと後で」で時間の（かなりの）経過を意識しますが，luego は「すぐ後で」という意味で，時間の経過があまりありません。

Q-8.　(18)の文の tan nervioso と más tarde の文法（文の構造・使い方）がよく分かりません。
A-8.　tan は「そんなに」という意味で，ここでは Pedro がいらいらしている「程度」を指しています。目の前にいる Pedro の様子を示します。más は「さらに」という意味ですから，「さらに後で」，「後になったら」という意味になります。どちらも「比較」構文で使われますが，このように単独で使われる場合も（暗に示された）「比較」の意味があります。

■文法

１．過去未来．規則変化

Q-1.　過去未来の意味や，過去未来をどういう時に使えば良いのかよくわかりません。
A-1.　英語でいえば would，should に相当します。基本的には過去のことを想像したり，過去から見て以後のことを言うときに使われます。未来形と比較するとわかりやすいと思います。HP の「教科書解説」を見てください。本文や副教材で出てきたときにチェックしていきましょう。

Q-2.　過去未来は「過去から見て未来のこと」を表すということですが，たとえば El me dijo que me llamaría por teléfono.の llamar por teléfono という行為が現在から見て未来のことでもかまいませんか？
A-2.　現在から見て未来のことでもかまいません。たとえば，El me dijo que mañana me llamaría por teléfono。(彼は明日私に電話する，と言った)ということもできます。

Q-3.　過去未来は過去推量と言ったほうが分かりやすくていいと思った。
A-3.　賛成です。「未来形」も「推量形」と呼びたいのですが，日本のスペイン語教育ではふつう「未来，過去未来」が使われています。

２．過去未来．不規則変化

Q-4.　過去未来の不規則変化は未来の不規則変化と同じ語幹が使われていますが，なぜですか。
A-4.　未来形と過去未来形はどちらも不定詞をもとにして形成されました。不定詞に，未来形は haber の現在形が，過去未来形は haber の過去形（線過去）が，それぞれ付加されたのです。そこでどちらも不定詞という元の形があるので，それの変化はどちらも同じで，形が共通することになります。

３．過去未来完了

Q-5.　どうしても過去未来完了で表現しなければならない事態はあるのか疑問である。
A-5.　確かに時間の関係で，「過去から見た以後の時点で完了すること」や「過去の時点で完了していることを推量する」というようなことはあまり使われないかもしれませんが，後で習う条件文の帰結節でも使います（これもそれほど頻度は多くありませんが）。

4. 再帰動詞の 3 人称用法

Q-6.　前の課で習った再帰動詞の自動詞化用法と，この課で出てきた受動態用法の区別がつきません。
A-6.　自動詞化用法と受動態用法とでは，意味が大きく違いますから注意しましょう。自動詞化はもとの他動詞が「…にする，…させる」という使役的な意味がある場合です。たとえば Me pones nervioso.の poner には「(私を)nervioso にする」というような使役的な意味があります。一方，Venden sellos の vender には「…にする，…させる」という意味がなく，単に「…する」という意味（「売る」）なので自動詞化ではなく受動態になります。再帰動詞の受動態用法は主語が３人称の「物」に限られます（「人」が～されたという場合には ser＋過去分詞の受動態を使います）。
　再帰動詞のその他の使い方をここで確認しておきますと，相互用法は「お互いに」という意味ですから主語が複数の場合に限られます。不定主語は典型的には動詞が自動詞の場合です。「意味が微妙に変化する動詞」と「再帰専用動詞」は一定の動詞に限られます。確かに再帰動詞は一筋縄では理解できません。本文や副教材で出てきたときに繰り返し説明します。

Q-7.　再帰動詞のところで，受動態用法，不定主語用法というのを学びました。一つ目の質問は，なぜこれらが《再帰》というところに含められているかということです。もう一つの質問は，たとえば授業中の説明で出てきた，Se habla español en México。という文章は，スペイン語が《話されている》と受動態用法でも考えられるし，《人は話す》と不定主語用法でも考えられますよね。この二つの分類を，ひとつにまとめて考えてしまうわけにはいかないのでしょうか？もちろん後者はいつも単数ということがあると思うんですけど。よろしくお願いします
A-7.　p.77 受動態用法と不定主語用法が「再帰」に含められるのは，se という再帰代名詞を使うからです。この se は 8 課（p.68）の再帰動詞の基本用法 1)～5)の用法で３人称のときに使われるものと同じです。確かに，3 人称用法は基本用法とかなり異なります。そこで別の課に分けてあります。また，Se habla español en México。という文は確かに「受身」とも「不定主語」とも考えられます。実は両者は根底で繋がっているのです。ただしそれは，Se venden sellos のように他動詞(vender)のときだけです。Se tarda...のような自動詞の場合は受身の解釈ができないので，必然的に不定主語になります。